幌向再生地の利活用と H29年度取り組み計画について

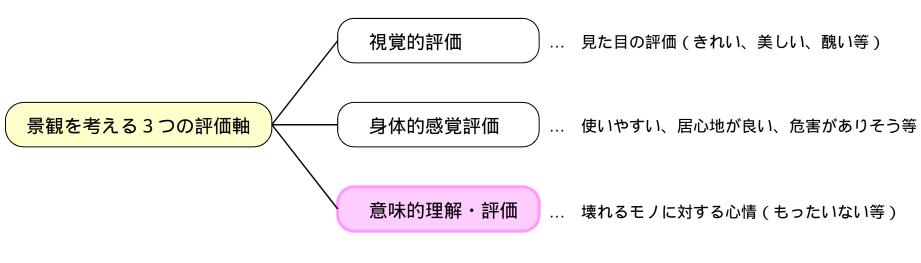
平成 28 年 12 月 22 日

第5回石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ (略称:幌向再生ワークショップ)

幌向再生地の利活用に向けて

(1)第4回幌向再生ワークショップにおける指摘(松田委員より)

- 幌向再生地の景観、利活用を考えるにあたって、景観はどう認識されるかということについて少し解説する。
- 景観は大きく分けて3つの評価の軸がある。 見た目の評価である視覚的評価、 使いやすい、居心地がよい等の身体的感覚評価、 三つ目に今回ポイントになる、 意味的理解・評価である。
- 幌向再生地は 意味的理解が非常に大きいと言える。意味的理解なしに幌向の景観、観光、活動を考えるのは非常に難しい。意味的価値を理解してもらうため、情報発信が一番必要であり、さらに体験して学習してもらうことで、価値観を共有することが重要である。





- 幌向再生地では、『 意味的理解』の要素が重要。
- 地域が良くなっていくプロセスを体験・学習してもらうことで、価値観を共有することが重要。
- そのために、情報発信・PR、環境学習・体験学習が必要。

幌向再生地の利活用に向けて

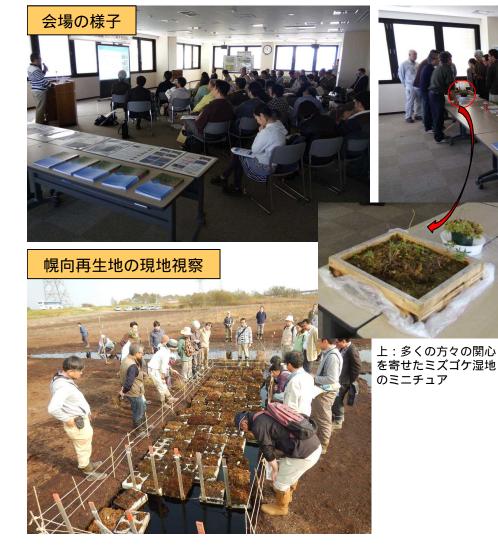
(2) 利活用に向けた取り組みメニュー

●今後の地域連携・利活用に向けた取り組み方針・役割分担を確認

項目	利活用に向けた取り組み(案)	現在の状況	次年度の取り組み方針
情報発信 PR	幌向湿原フォーラム	H28年度にはじめてのフォーラ ムを開催した。	
	フットパスルートへの位置づけ	ふらっと南幌のフットパス ルートとなっている。	
	幌向再生を紹介するパンフレット	H27年度にパンフレットを作成 した。	
	ホームページ等	江別河川事務所HP内に開設されている。	
環境学習 体験学習	出前講義	当別高校、南幌高校への出前 講座が行われている。	
	種採り・苗づくり・移植体験	未実施	
	学校教育との連携・イベント等へ の学生の参加	未実施	
	湿原観察会	未実施(湿原の再生に時間を 要する)	
施設整備	観察木道・展望設備等の整備	未実施	
			2

『幌向湿原フォーラム』開催(H28.10.16(日))

■基調講演(矢部座長)、幌向自然再生の取り組み紹介(江別河川事務所)、地域活動紹介(4団体)、幌向再生地の現地視察を行い、約40名の参加を得た。





= 主な意見・質問等 =

- •30年ほど前、幌向再生地の下流にあるピートモス採掘場に湿生植物が生育していた。当時は湿原保全の機運もなく、泥炭採掘により破壊されてしまった。ミズゴケ属、モウセンゴケ、カキラン、トキソウ、ハルリンドウ、サワシロギク、ヤチヤナギ、サワギキョウ、カキツバタ、タチギボウシ、ミズバショウ、ワレモコウ類などである。
- カラカネイトトンボを守る会では、拓北高校が地域に開いた校風であること、地域に賛同してくれる方がいたこと、地域住民に行動力があったことなどが、活動の裾野が広がった要因と思う。
- •現在、石狩川流域の湿地保全活動を行っている団体のネットワークを作ろうと活動している。今後、団体共同のイベント等を開催したいと考えているので、ご協力願いたい。 3

フットパスルートへの位置づけ

■ふらっと南幌の月例フットパス(H28.11.20(日))において、環境ごみ拾いを併せながら、幌向 再生地において湿原再生の取り組みを紹介した。17名に参加していただいた。











■ 月例フットパス 新夕張川湿原再生・復元コースを歩く

~山並みを眺めつつ美しい田園風景を楽しもう~ ゴミ拾いご一緒に♪

日時:平成28年11月20日(日) 10 時~

場所:南幌町ふるさと物産館ビューローに集合 会費:500円

ホームページ http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/kasen/08isiken/02genba/23ebetu/





石狩川下流幌向地区自然再生

河川の概要

自然再生計画

ワークショップ

トップページ

◆自然再生計画◆

石狩川の環境改善を目的とした取り組みの一環として、低層 湿原整備に向け試験施工・モニタリングを行いデータの蓄積を 行ってきました。また、平成14年度には「石狩川自然再生勉強 会」を設立し、学識経験者の助言を得ながら、「石狩川下流自 然再生計画」を平成20年3月に策定しました。

◇石狩川下流幌向地区自然再生計画

石狩川下流幌向地区は、かつては下流域に高層湿原等か らなる幌向原野(高層湿原等)が広がり、「ほろむ」い七草」等の 湿生植物が生育していましたが、現在は治水や農地開発によ り、豊かな農地として利用され、湿生植物は夕張川高水敷の 一部や越後沼等に生育するのみとなっています。

「幌向地区」では、高水敷を活用し湿地環境を整備し、これら の自然環境再生を目指します。

※「石狩川下流自然再生計画書」詳細はこちら(PDF:約 2.81MB)

※「幌向地区自然再生実施計画書」詳細はこちら(PDF:約) 3.91MB)

幌向地区における整備メニュー



▲クリックすると拡大します

幌向地区における自然再生の施策

	自然再生の施策				
1	施点	環境整備	整備内容	坚地理境	
	軽向地区	型地の整備	・高水敷を活用し、 湿地環境を整備	型地7ha	





当別高校との意見交換(H26.10.9)・現地見学会(H26.11.6)

- 幌向地区自然再生の中で、ミズゴケ属の移植を行う予定であるが、増殖・移植作業を教育の一環として行えないかなど当別高校と意見交換を行った。
- 当別高等学校の園芸デサイン科の先生、学生に事業説明を行いミズゴケ属 の必要性などの説明を行った。

(園芸デザイン科では、庭園用のコケを栽培し、授業の一環で仮の庭園を 増設している。)

- 今後、環境教育として実施できるかを検討していく。
- 現地も見学してみたいとの意見もあった。
- 先生、学生共に環境に対する取組に意欲的であり熱心に話を聞いていた。







南幌高校への出前講座 (H28.11.16)

■南幌高校の位置する南幌町の自然の成り立ち及び生態的な特徴と自然再生への取り組み、防風林の植物、外来生物の概要を学ぶことを目的とした出前授業を実施した。

科目名

理科「生物基礎」

4編「生物の多様性と生態系」

3章「生態系とその保全」

「生態系のバランスと保全」 の1時限目

授業内容

「南幌における自然の保全への取り組み」 講師:濱田暁生氏(ふらっと南幌)

「南幌の自然、生態系とその保全」 講師:横山武彦氏(北海道環境カウンセラー協会)

「ミズゴケの繁殖方法」 講師:坂元直人氏(北海道環境カウンセラー協会)





当別高校 青春フットパス (H28.11.12(±))

当別高校ホームページより

■当別高校園芸デザイン科の生徒たちによる企画でフットパスが行われている。H28年度は5回開催され、生徒たちによる歴史的背景に基づいた説明、地域食材を使用した昼食等の企画が参加者を喜ばせている。

第5回 2016/11/18 参加者40名

- ・フットパスコースの要所要所で担当生徒による歴史的背景に基づく説明
- ・家政科3年食物調理コースの生徒による地域食材を使用した昼食
- ・食後の吹奏楽部によるミニミニコンサート







Vol.35 平成 28 年 11 月号

■ 当別高校 青春フットパス 5回目

日時 : 平成28年11月12日(土) 10 時~14 時頃予定(荒天中止)

会場 : 当別高校 (当別町春日町 84)及びその周辺

参加費:1人700円(食事代+保険代)※お釣りのないようにご協力をお願いします。 申込: 当別高校園芸デザイン科 TEL 0133-23-2444 (平日 9:00~16:00)

FAX 0133-23-2380 e-mail toubetsu-z1@hokkaido-c.ed.jp

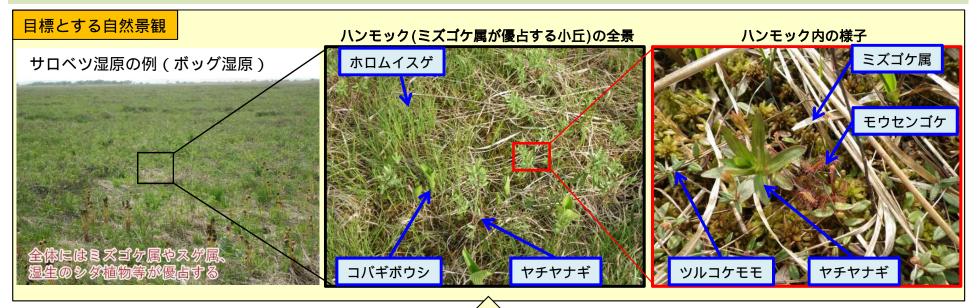
*2日前まで受付。キャンセルは食事都合のため前日まで。お名前・住所・連絡・人数をお伝えください。

9:45~ 受付 10:00~ フットハペスコース(6~8 キロ程度の鰯コース) 12:45~ 昼食(生徒の手作りの鰯メニュー)

13:30~ アンケート(ときには) スペシャルタイムが) 14:00 解散

連携団体: NPO 法人ふらっと南幌 フットパス・ネットワーク北海道事務局「エコ・ネットワーク」

目標とする自然景観





幌向再生地より下流側



幌向再生地より上流側





